



改めて政宗公の素顔を知る！記念講座

伊達政宗公生誕450年記念講座は、「政宗公に想いを馳せ、ふるさと宮城を見つめ直す」というテーマどおり、この記念の年に政宗公の戦国大名としての生き様はもとより、治水対策や新田開発等のインフラ整備や、仙台城や瑞巖寺といった施設の建設、「本石米」と称された宮城米や仙台味噌誕生への関わりなど、現代に息づく政宗公の業績を改めて照らしだし、政宗公をはじめ伊達家にまつわる歴史や現代に遺る遺構を改めて知っていただくとともに、職員等自らがふるさと宮城に係る情報発信元となっていただくことを目的として開催しました。

1 第1回 6月28日「生誕450年 伊達政宗の食ともてなし」

講座の第1回は佐藤敏悦氏（東北民俗の会会長）に御講演いただきました。

始めに、宮城のご当地検定「宮城マスター検定」について出席者の方々に仙台伝統野菜の問題を出題した後、講演に入りました。

講演では、政宗公は自ら献立を指示するなど食に関心が高く、徳川幕府の時代になり将軍を食でもてなし、宮城米で江戸の人々の胃袋を掴むなど、食を戦略的に用いていたことなどが紹介されました。

それから仙台藩ではもてなしの文化が根付きましたが、幕末の度重なる飢饉や戊辰戦争の影響による減封などにより食文化の敬称が難しくなったそうです。



政宗も贈答に使った子籠鮭（イメージ）

2 第2回 7月26日「武将歌人 伊達政宗と仙台藩の国づくり」

講座の第2回は伊達宗弘氏（仙台大学客員教授）に御講演いただきました。

始めに、前回に引き続き「宮城マスター検定」から北山五山の問題を出題した後、講演に入りました。

講演では、政宗公が生まれた伊達家では、武芸はもちろん学芸をたしなむことを家風とした家であり、様々な人に出会うことにより大きく花開いていったことや、仙台城の築城後は城下町の整備に力を入れ、人々の生活用水を確保する四ッ谷用水や、北上川の整備や木曳堀などの運河を整備することで新田開発や水運を改善するなど、現在のまちの基礎を築いていたことなどを教えていただきました。



上：扇面和歌 伊達政宗筆
下：茶杓 伊達政宗作 山岸右近献上
（ともに仙台市博物館蔵）

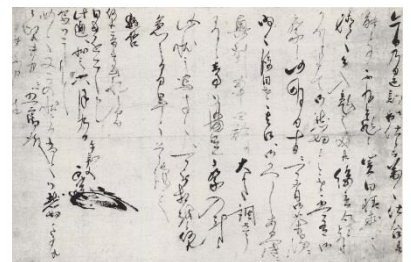
3 第3回 8月23日「伊達政宗は“筆武将”—手紙に見る政宗」

最終回となる講座の第3回は佐藤憲一氏（元仙台市博物館長）に御講演いただきました。

講演に先立ち、お昼に開催されている「県民ロビーコンサート」の際にこの講座についてご紹介させていただき、その甲斐あって一般の方の参加も見られました。

講演の始めに、今年度の宮城マスター検定1級試験の日程と、新たな取組として検討中の「みやぎ・仙台 日本一 百選」について紹介した後、講演に入りました。

講演では、政宗公はコミュニケーション手段として手紙を上手に活用しており、他の武将と比較しても自筆の手紙が突出して多いことや、当時は紙が貴重品だったことから、一枚の紙に多くの追伸があること、手紙を読み解くと政宗公の親心やユーモラスな面が垣間見え、様々な面から政宗公の人間味が感じられました。



伊達政宗書状 天正18年6月9日
五郎（成実）殿（宮城県図書館蔵）